

社会政策学会 Newsletter

◇学会本部 立教大学経済学部 菅沼隆研究室
URL : <https://jasps.org> TEL : 03-3985-4529 E-mail : suganuma@rikkyo.ac.jp
◇編集・発行 菅沼隆 (代表幹事) 吉村臨兵・森詩恵 (Newsletter 担当幹事) 中尾友紀 (事務局長)
◇事務センター 〒170-0013 東京都豊島区東池袋 2 丁目 39-2 大住ビル 401
(株)ガリレオ 学会業務情報化センター内 社会政策学会事務センター
TEL : 03-5981-9824 FAX : 03-5981-9852 E-mail : g048jasps-support@ml.gakkai.ne.jp

【目次】

1. 学会賞の発表と表彰の秋季大会への変更について
2. 大会フルペーパーの位置づけに関する申し合わせ
3. 第 150 回 (2025 年春季) 大会のお知らせ
4. 第 150 回 (2025 年春季) 共通論題の予告
5. 第 149 回 (2024 年秋季) 大会報告と会計報告
6. 第 149 回 (2024 年秋季) 大会臨時総会報告
7. 第 149 回 (2024 年秋季) 大会若手研究者優秀賞
選考報告
8. 2024-2026 年 期 幹 事 会 報 告
9. 政治経済学・経済史学会大会共通論題の共催の
お知らせ
10. 承認された新入会員

1. 学会賞の発表と表彰の秋季大会への変更について

学会賞の発表と表彰を秋季大会に変更します。

学会賞選考委員会から幹事会に「学会賞は前年 1 月から 12 月までに発表された研究業績を対象に選考を行い、春季大会までに決定することになっている。そのため実質的に選考期間は 4 カ月～4 カ月半程度になり、選考の期間が十分とはいえない。これを秋季大会で報告するようにすれば、選考に十分な時間をかけることができ、深められた議論が可能になるのではないか」という検討依頼を受けました。これについて 2024 年 10 月の第 4 回幹事会にて審議し、変更が認められました。新しい学会賞選考委員会の第 1 回会合に審議経過を伝え、委員会でもその方針が確認されました。これにより 2025 年から学会賞の表彰は秋季大会の総会の際に行うことになりました。これに伴い「会則」第 26 条を「本会は、大会時に総会を開く」(改正前「本会は、毎年の春季大会時に総会を開く」)と改正する提案を第 150 大会の総会で行います。

(社会政策学会幹事会)

2. 大会フルペーパーの位置づけに関する申し合わせ

[1] 当学会ホームページ「自由論題報告・テーマ別分科会報告の募集」(<https://jasps.org/archives/5800>) の「以下は、自由論題とテーマ別分科会の応募に共通の注意事項です。」の「(5) 第 128 回大会からフルペーパーは電子化されました……」を下記の文に換えます。

(5) 学会報告に応募し採択された場合は、学会当日前の所定の期日までに、報告内容を文章化したフルペーパーを提出していただきます。特にテーマ別分科会の申し込みにあたってコーディネーターの方は、必ず、すべての報告者(非会員の方、実務家の方も含む)に、フルペーパーの提出の義務と締切日について説明し、了解を得ておいてください。なお、本学会における大会フルペーパーの位置づけについては末尾の《フルペーパーとは》をご確認ください。

[2] 同ページの「(10) 共同研究の成果を報告する場合は……」の後、《二重投稿に関する注意》の前に下記の文を追加します。

本学会における大会フルペーパーの位置づけについて、第 38 期 (2024-2026 年) 幹事会では次のよう

に確認しました。第 151 回 (2025 年秋季) 大会より適用します。

《フルペーパーとは》

①学会報告は、当日の報告(発表)に意味があります。事前にフルペーパーの提出を課す目的は、文章化できるレベルの完成度に至っている学会報告を求めるためであり、報告の質を高めるためです。当日の学会報告が、事前に提出したフルペーパーからさらに改善された内容で行われることは歓迎されます。

②フルペーパーの分量や形式は自由です。社会政策学会誌『社会政策』の掲載論文がモデルになりますが、学会誌に準じた論文形式でなくてもかまいません。ただし①の目的を踏まえて、報告内容を文章化したフルペーパーは提出してください。

③フルペーパーが提出されなかった場合のペナルティ(報

告の取り消し、将来の応募制限等)は設けません。ただし、会員は大会に参加するにあたりフルペーパーを閲覧しますので、フルペーパーの提出義務を果たしていない報告として、会員に周知されます。

④フルペーパーは学会報告に付随して提出されたものであり、報告者の既発表論文とはみなしません。報告者は、学会報告後、フルペーパーを公表・投稿する自由があります。フルペーパーを引用されたくない場合は「未定稿のため引用不可」とフルペーパーの冒頭に明記してください。

⑤大会若手研究者優秀賞は、フルペーパーが審査対象になります。フルペーパーの分量・形式は自由ですが、優秀賞候補の方は、学会誌掲載論文の分量・形式で執筆されることを推奨します。

(社会政策学会幹事会)

3. 第 150 回 (2025 年春季) 大会のお知らせ

この度、社会政策学会の第 150 回大会を東京都立大学南大沢キャンパスにて開催いたします。本校での開催は、2020 年春季大会(第 140 回)から 5 年目となります。2020 年大会は、突然に襲った新型コロナ・ウイルス感染症の拡大によって開催 1 か月に共通論題だけのオンライン開催となりました。当時、本校は名称を首都大学東京から、かつての名前であった東京都立大学に変更したところでした。伝統あるかつての名前で皆様をキャンパスにお迎えできることを楽しみにしていましたが、ありませんでした。なので、前代表幹事の禹 宗杭先生から再度の開催を打診された時、喜んでお引き受けいたしました。

日程は、2025 年 5 月 17 日(土)と 18 日(日)です。緑が美しい季節です。

みなさまと、対面でお会いできることを心からお待ちしております。

本大会は、本学の堀江孝司会員、室田信一会員、林祐二会員、跡部千慧会員のほか、松原祥、近藤天之、高西圭太、新田凌大の院生会員、また、助っ人として都立大 OB/OG の梶原豪人(県立広島大学)会員、引馬知子会員(田園調布学園大学)の強力かつ献身的な協力のもとに運営されております。大会にてスタッフを見

かけたら、お声がけいただければ幸いです。

(第 150 回大会実行委員会委員長 阿部彩)

4. 第 150 回 (2025 年春季) 共通論題の予告

社会政策学会第 150 回大会(春季大会)は、5 月 17 日(土)、18 日(日)に東京都立大学において開催されます。詳細は 4 月上旬頃に、会員の皆様のお手元に郵送するプログラム、および、学会ホームページに掲載されるプログラムをご確認ください。

このニューズレターでは、共通論題に限って皆様にお知らせします。

本大会では、「男女賃金格差を改めて検証する」と題し、5 月 17 日(土) 13~17 時に共通論題を開催します。男女賃金格差の議論は、2023 年にクラウディア・ゴールデイン氏がノーベル経済学賞を受賞したことにも象徴され、また「女性活躍推進」への関心と企業における実践の活発化に見られるように、近年注目を集めています。また、2025 年は第 4 回世界女性会議における「北京宣言」から 30 年の節目の年でもあり、社会的にもその議論がさらに活発化することが予想されます。社会政策学会ではこのテーマにかかわって、多くの議論の蓄積があります。本大会では、社会政策学会での議論の蓄

積も踏まえながら、近年の男女賃金格差をめぐる経済学等での議論・成果や、企業の制度改正などの現状を踏まえながら、男女賃金格差是正の方向性について議論したいと思います。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

「男女賃金格差を改めて検証する」

座長：清山玲（茨城大学）

報告1 どうしたら男女賃金格差は縮まるのか

田中洋子（筑波大学名誉教授、ベルリン自由大学フリードリヒ・マイネッケ研究所客員研究員、法政大学大原社会問題研究所客員研究員）

報告2 残業時間の賃金プレミアム——男女格差と経年変化の分析

兄玉直美（明治学院大学、非会員）

報告3 非正規雇用の賃金制度はこの10年でどう変わったか——小売業の聞き取り調査から賃金格差を考える

小野晶子（労働政策研究・研修機構統括研究員）

コメンテーター：遠藤公嗣（明治大学名誉教授）

（春季大会企画委員長 禰あや美）

5. 第149回（2024年秋季）大会報告と会計報告

2024年10月18日・19日（20日エクスカージョン）の大分大学での149回大会が滞りなく終了しました。ここに大会報告と会計報告をいたします。

（1）引き受け経緯

まずは、開催にあたりご支援いただいた幹事会、秋季大会企画委員会および業務支援をして頂いた学会事務代行のガリレオ様にお礼申し上げます。

大分大学での大会はこれまでニューズレターでお伝えしています通り学会史上2回目の開催です。1回目開催にも事務局で参加した私、石井が今回は実行委員長となり、学会最後のご奉公としてお引き受けさせて頂きました。2020～22年までコロナ禍の代表幹事として学会活動を行い、その任が解けた2022年8月に前代表幹事の禹さんより今回の大会開催の打診が参りました。

代表幹事にとって最も頭を悩ますのが会場校の選定です。大学業務が多忙化している上に、会場予約の調

整業務や費用交渉など、社会政策学会規模の学会を大学在学の学会員だけで切り盛りすることできるところは決して多くはありません。私も大会開催校決定には苦労した経験者の一人ですので、二つ返事でお引き受けしました。それが出来たのも2019年から大分大学に赴任した三好会員に手伝ってもらえるとのゴーサインを受けての話です。

（2）会場確保・実行委員会立ち上げ・引継ぎ

大分大学で前回開催したのが第113回（2006年秋季）でした。その時の記憶を辿りながら、最初にしたのは会場確保です。10月の3連休は避け、他学会との重なりをさけるため社会政策関連学会協議会のネットワークを活かし、可能日を探りました。日本社会福祉学会は10月第4週とだいたい決まっているようであり、我々は3連休のあと、第3週の土日に設定しました。どこの大学も世知辛く、会場使用料をとるようになっており、国立大学も法人化以降は安くない費用を請求されるようになっていました。そこで、前回と同じく経済学部と共催する手続きを2024年2月に行い、まず開催当日の10月18・19日の経済学部全教室を押さえることに成功しました。

その後、5月15日に第147回大会の会場であった立命館大学の櫻井さん、丹波さんとZoomにて打ち合わせをしました。運営マニュアル、アルバイト配置表、次回大会校への引継ぎ書を頂き、おおよその流れを理解しました。前回と異なり受付管理は業者がすることになり、その段取りや会計処理の確認を行い1時間程度で終わりました。次に、慶應義塾大学の山田さんのもとで第148回大会に参加し、受付、教室、休憩室、共通論題会場、懇親会会場等の参考写真を撮りまくり（立命館でも同様に実施）、頭のなかで開催シミュレーションを実施しました。

この第148回大会の終了後の5月19日に第149回大会大分大学大会の実行委員会を立ち上げ、委員として実行委員長を経済学部の石井、事務局長を経済学部の三好さん、これに2024年4月に福祉健康科学部に着任したばかりでしたが学会幹事でもある志賀さんに委員をお願いし、快く入って頂きました。さらに、前回は実行委員長であった阿部さんも経済学部にも客員研究員として残っておりましたので、お声掛けをし、この4人で運

営をしました。前回の経験から大会実行委員会は3人がベストと考えておりましたので、志賀さんの赴任は渡りに船でしたが、志賀さんにとっては巻き込まれてしまった感があったかもしれません。

その後、第148回大会の開催後に引き継ぎ書を頂き、それをもとに6月13日に山田さんと1時間程度打ち合わせをし、使った案内・受付資材や運営マニュアル、また会場案内用のファイルを頂きました。

(3) 実行委員会および当日運営

○実行委員会役割分担

実行委員会は、慶應義塾大の大会後の5月19日に立ち上げて、9月までは毎月1回開催し、10月は2回開催で計7回開催して準備を行いました。主として、前半戦は大会プログラムの作成、後半戦は懇親会準備でした。

第113回の「伝説」の大分大学大会は語り継がれており、石井と阿部さんは経験者ですので、前回大会水準までもっていくため、懇親会でのホスピタリティをまずは追求しました。その責任者を三好さんにお願いし、快く引き受けて頂きました。お酒の選定は阿部さんが買って出てくれましたのでリスト作成をお願いしました。事前にニューズレターや懇親会で石井が懇親会について期待値を上げておりましたので、実行委員会の皆さんには大変苦勞をかけてしまったようです。この点は反省しておりますが、周囲の期待が大きく、何とかしたいと思っておりました。決して学会員からの「強制された自発性」ではなく、大分をアピールしたいという「天性からの自発性」でした。

○大会プログラム作成

前半は大会プログラム作成、そのための会場手配でした。今回は懇親会を宣伝した関係かは定かではありませんが、分科会や自由論題が多く、経済学部だけで会場を回すのにはギリギリの状態となっていました。書籍関係者から教室1室にすると来場者が少なくなると言われており、当初は1階のアクセスの良い大教室に書籍展示と休憩室を一緒にしておりました。しかし、やはり大会実施優先ということで、大会に教室を提供し、受付に近い自習室を休憩室兼書籍展示とし、休憩室をもう1室会議室を活用して設定することにしました。当日お昼時間などは休憩室が満員御礼でややご迷惑をお

かけしました。1日目は曇り空でやや肌寒いなかでしたが、休憩室に入れなかった方は外での食事では何とか対応できました。

大会プログラムの印刷は慶應義塾大学の山田さんから紹介を受けた、慶應義塾大学内に事務所がある梅沢印刷さんにお願ひしました。様々なことに柔軟に対応して頂き、かつ価格もカラー込みでリーズナブルでありすぐにここに決めました。その後のやり取りは志賀さんにお任せし、垣田秋季大会実行委員長から7月末に原稿が来るのを待ち、こちらの交通アクセスや教室の案内を6~7月で作成していました。大会プログラムの冊子郵送は大会開催1カ月前前となっているのが慣行でしたが、8月すぐに印刷所に入稿しないと間に合わないスケジュールであり、今回は入稿が7月中旬くらいだと余裕をもってできると思います(大会プログラムを作成する場合ですが)。また、校正作業にもやや余裕がなく、報告者の肩書記載ミスなどもあり、冊子体の場合はもう少し余裕をもって作成した方がいいかもしれません。

○懇親会

懇親会は実行委員会で一番時間を費やした議題です。もともとは知り合いの寿司職人を配置し、こちらも知り合いの道の駅からも出店し、会場で出来立ての料理を提供し、新しく佐伯で開業の地ビール店のオーナーにも来ていただくことを考えていました。ところが、コロナ禍を経た食品安全衛生行政は厳しく、営業許可問題があり、収入を伴うこれら企画はすべて許可が下りないという壁にぶち当たりました。これが6月頃に判明しました。加えて、前回提供した関アジ関サバも高騰しており、入手が困難な事態に追い込まれました。

三好さんが市内の業者を駆けずり回った結果、1社だけ、少しお高いのですが佐賀関ブランドの関アジ関サバを提供して頂ける確約がとれ、まずは1つ課題をクリアしました。当日は、関アジ関サバを学会員がぐるり取り囲み、外からは関アジ関サバが見えない人気ぶりでした。ただ、この関アジ関サバは大丈夫かという心配があり、1月前に試食会を大分大学教職員組合の組合員有志を巻き込んで開催して、大丈夫のお墨付きを頂きました。

残る素材は、地元の仕出し業者、そして会場を借りる大分大学生協に、郷土にちなんだものをとオーダーして団子汁やとり天、そして様々なオードブルを用意してもら

いました。様々な業者をあたりましたが、会費 5,500 円でやれるところとなると限られました。このなかで、いろいろな方に懇親会のことを相談していると、救いの神がやってきて、経済学部生の祖母が大根と椎茸をお酢でしめた「雪ん子寿司」をやっているよとか、経済学部生が「朝地牛」の宣伝をしているよと情報が入ってきて、すぐお願いをしました。その結果、佐伯からは「雪ん子寿司」、豊後大野からは「朝地牛ローストビーフ」（今回学会のために開発！）を調達でき、当日は生産者のスピーチもお願いし、大好評を得られました。この 2 つは、関アジ関サバ以上に評判の良い料理となりました。

また、料理が途中で切れたら大変と追加で持ってきてもらえる業者として、日ごろからゼミの打上げなどで大学にいつも配達をしてもらっている寿司屋さんや、知合いの就労支援施設からのオードブルもお願いしておりました。結果は、食べきれないほどの料理になり、少しもったいなかったのですが、食用旺盛な大学院生を中心に「今回はしっかりと食べられました」と満足していただきました。

お酒コーナーも好評でした。我々も日ごろは飲めない日本酒、焼酎（特に耶馬美人）、地ビールをラインナップし、私もお酒係で立ち続けました。ただ、あまりにも好評であり少し早めに完売してしまい、かなりお酒は用意したつもりでしたが、学会のお酒需要を甘くみていました。多めに用意すべきだったと深く反省しています（笑）。中央に置きましたカボスも保健所の指導で自分切りをお願いしましたが、好評でした。スタッフジャンパーの学生たちも自分の食事は後回しで、給仕等に勤しんでくれたおかげで、会場は懇親ムード一色となり盛況のうちに終了しました。

○お土産セット・お弁当・休憩室

今回の実行委員会の肝煎りプロジェクトがお土産と休憩室の茶菓子セットでした。大分の銘菓「ざびえる」は、25 年前に倒産して、そこから社員が自主経営で復活させた企業です。長い焼き窯を使ってゆっくりと丹念に焼き上げられたお菓子で、大分と言えば「ざびえる」ですので、是非提供しようと思いました。しかし、休憩室に置いては全員には行き渡らないと考え、参加者に渡す資料バックに入れることにしました。ざびえる 1 個だけでは寂しいので、大分県中小企業家同友会で長く懇意に

している老舗「上田椎茸専門店」の上田さんから最近開発した「どんこ椎茸せんべい」を仕入れ、これにイラストの上手い大学院生・坂本さんに案内文を書いてもらい大分を宣伝してもらいました。

さらに、慶応義塾大学の懇親会で能登支援のブースを開くと言ってしまい実現に奔走したのですが、大会での別企画は幹事会の承認などの手続きもいるのではとなりました。そこで俳優・常盤貴子さんと一緒に能登でボランティア活動をしている佐伯の柴田さんから、能登では「口腔ケア」のチラシと一緒に佐伯の「食べるいりこ」を配って好評なので、同じチラシと「食べるいりこ」を仕入れてお土産にセットすることにしました。これらを封入するのは、前々日の 17 日（木）、夕方 2 時間かけて 10 人で 250 セットを作りました。

お弁当は、1 日目は大分大院卒の方が理事をしている障がい者就労支援施設に大分らしいお弁当を税込み 800 円でお願ひしました。2 日目は懇親会でもお世話になる「雪ん子寿司」をこちらも 800 円でお願ひしました。どちらも小分けのなかに大分の食材を配置してもらい、大好評でした。

今回は 2 日目午後が共通論題でもあり、大分という魅力的な場所柄、参加者が減少することを懸念し、2 日目の弁当が参加の誘因になるようにと慶応義塾大学の大会でも宣伝したこともあり、1 日目は 99 人分、2 日目は 1 日目を超える 100 人分の注文を頂きました。どちらも大分に来てもなかなか手に入らない弁当ですので、多くの方に行き渡り実行委員会としては満足しております。

また、休憩室は、大分の茶菓子をと探しましたが、やはり銘菓はお値段が張り断念し、市販のお菓子にしましたが、お茶くらいは少し工夫をということで、地元のお茶屋さんと相談しました。本当はキッチンカーでも呼びたかったのですが予算にあわず、紹介されたのが、大分のフレイバーティーを 3 種類、かばす緑茶（藤井名人も大分で飲んだ！）、佐伯マリンレモン茶、ゆずほうじ茶でした。こちらもメイドイン大分ということで印象に残ったのであれば幸いです。

○会場設営・エキスカージョン

会場設営は前日金曜日に看板業者による設置と、金曜授業の関係で、会場が使えるようになってから、掲示物の貼付やパソコン・音響機材の確認を実行委員で手

分けして行いました。

エクスカーションとして前回大会も行った日本製鉄（前回は新日本製鐵）大分製鉄所の見学を学会終了翌日の午前に企画しました。学会 HP や学会 ML で応募を募りました。中型バスを 1 台用意し、参加者 26 人で実施し、当日は運よく高炉から流れる溶鉄を混洗車に入れるシーンや圧延工程も見られ、鉄製造をリアルに感じることができました。

○アルバイト（スタッフジャンパー・トランシーバー）

今回アルバイトは院生・学部生 1 日目 12 人、2 日目 6 人を時給 1,500 円（学会基準だということ）でお願いしました。ゼミ生や日ごろから懇意にしている学生たちでもあり、応対や会場案内についても会員の方からお褒めの言葉を頂きました。

今回アルバイトの服装はスーツ等にはせず自由にしました。ただ、腕章だけでは寂しいので、学会スタッフジャンパーとして、アルバイト分 12 着を新調しました。デザインは学会ロゴがないので、HP からデザインを拝借しました。いくつか業者から試着用のジャンパーも購入し、最終的にはやや高く（プリント代が高い）になりましたが「巧房テイクツ」さんのブルゾンジャンパーを注文しました。デザインや色が良かったようで、着ていた学生からもこれはもらえないのかと問い合わせはありましたが、これは学会の備品として次回開催校の東京都立大学へ送りました。

また、当日の連絡用トランシーバーをレンタルしておきました。ただ電波の関係で時々使えないこともあり、携帯電話と併用でした。とても安価に借りれたのは良かったのですが、性能がいいものでないと安物買いの銭失いになってしまいます。

今回、アルバイトが 12 人で済んだのは、当日にボランティアで新潟国際情報大の堀川さんと、山口県立大の勝井さんが応援に入ってくれたことが大きく、ここに感謝の意を表したいと思います。

○財政支援

今回、大分土産や休憩室のお茶など、通常の大会とは少し差別化した結果、これらへの経費はかかりました。そのためまず、受付業務の業者委託は当日参加の入金業務もこちらで実施することにして、必要最低限で願

いました。大きかったのは、大分をアピールするということで大分市の観光協会へ補助金を申請し 40 万円、また経済学部後援会から 5 万円を補助してもらったことです。お陰で、スタッフジャンパー作成、案内看板設置や会場花、お土産や休憩室茶菓を充実させることができました。両組織からの支援に心よりお礼申し上げます。

(4) 当日参加者数と雑感

大会参加の事前申し込みは 219 人でした。内訳は一般会員が 166 人、院生等会員が 30 人、若手研究者参加の会員 3 人、永年会員 3 人、非会員招待者 1 人、非会員 16 人でした。これに当日参加の 25 人、一般会員 10 人、院生等会員 3 人、非会員 12 人でした。

事前、当日あわせて 244 人の参加でしたが、事前入金されているのに受付されなかった方が 20 人ほどおり 220 人程度が今回大会の参加者でした。

食・酒・人・観光資源の地の利がある大分で、実行委員、アルバイト学生、当日協力の学会員に支えられて無事大会が終わりました。当日は交通の混乱もなく順調な運営でした。ある方から 3 年に 1 回は充分でやって欲しいとの嬉しい言葉も頂きました。代表幹事は大会開催を 2 回、委員会も一通り経験させて頂きましたので、これでお役御免であると思っております。ご参加のみなさん、ありがとうございました。

(5) 会計報告

第 149 回大会の会計報告は次頁記載の通りです。

（第 149 回大会実行委員会委員長 石井まこと）

6. 第149回(2024年秋季)大会臨時総会報告

日時：2024 年 10 月 19 日（土）17：05～17：50

会場：大分大学旦野原キャンパス経済学部 202 号教室

審議事項

1) 若手研究者の旅費補助規程（第 3 条旅費の請求）の改正について

改正の趣旨：旅費請求額の正確な算出のために必要な書類の提出について改正案に明示する。具体的には、第 3 条に下線部を引いた 2 文を追記した。

第 3 条【旅費の請求】 前条の対象者のうち、居住地が大会開催校から片道 60 キロ以上離れている者は、

収入	(単位：円)
大会開催費	1,500,000
参加費（事前納入）	504,500
参加費（当日）	72,000
経済学部後援会からの助成	50,000
大分市観光協会からの助成	400,000
書店の広告・出店料	100,000
大会弁当代	159,200
懇親会費	742,500
収入合計	3,528,200

支出	(単位：円)
プログラム印刷経費	536,217
ガリレオ委託費（大会受付管理業務）	265,749
看板等設営費	214,500
共通論題花代	22,550
休憩室用飲料茶菓子費	76,199
大会バック作成費	179,618
スタッフ制服作成費	63,658
文具・ネームホルダー代	18,543
大会運営スタッフ人件費	274,000
トランシーバーレンタル費	11,704
お弁当代	178,000
エクスカーシオンバス借上費	63,910
懇親会費	914,120
次期開催校への宅配費	5,420
ガリレオへの振込料	660
学会会計への繰入れ	703,352
支出合計	3,528,200

報告を行った大会終了後に旅費を請求することができる。但し、所属組織から支給される経費あるいは公的に支給される経費等から旅費が支給される場合は対象としない。旅費請求額の正確な算出のため、旅費請求時に、交通費の金額がわかる領収書や乗車券・特急券などを提出する。また、旅行代理店から発行されるバック料金等についても、内訳がわかる明細書及び行程表を提出する。（改正歴への記載：2024 年 10 月 19 日第 3 条を改正。旅費請求のための添付書類を明記。）

報告事項

2) 細則類の改訂について

①会費の割引に関する申し合わせ (4) を新たに次のように改正した。

(4) 日本学術振興会特別研究員は常勤職に就いているものとみなす。（改訂歴への記載：2024 年 10 月 19 日 (4) を改正、総会報告。）

なお、今後は改訂歴の記載欄を末尾へ移動する。

②「大会若手研究者優秀表彰規程」に関する細則 8 項を削除した。

大会若手研究者優秀者賞はこれまで通り選定するが、自動的に学会誌に掲載するという取り扱いはやめる。現行の細則のもとで学会誌に掲載された「大会若手研究者優秀賞レフェリー付」論文は「査読付き論文」と認める。2024 年度秋季大会までは現行の細則を適用し、2025 年度春季大会から新しい細則に移行する。（改訂歴への記載：2024 年 10 月 19 日総会報告。第 8 項を削除し、授賞の対象となったフルペーパーを自動的に学会誌に掲載する扱いを廃止。）

③投稿細則の一部修正

修正の趣旨：ネイティブチェック証明書の提出を初回提出時に求める方式から掲載決定後に求める方式に変更する。

(3) の修正は次の通り（修正箇所を下線）。

(3) 提出にあたっては、下記の①の内容を入力し、②と③のファイルを提出する。④は、必要のある場合に PDF 形式のファイルを提出する。審査結果に基づき修正した原稿を再提出する場合も同様とする。査読による修正の要請があった場合には、再提出時に⑤を提出する。⑥は、投稿原稿の本誌への掲載決定後に提出する。

①応募内容の入力

・著者名・ふりがな・ローマ字表記（例：Shakai SEI-SAKU〈名姓の順〉）・所属

＊共著の場合は全員記載

・連絡先（住所・携帯電話・E-mail）

＊共著の場合は、代表執筆者のみを記載

・研究論文と研究ノートの別

・原稿行数

＊執筆要領 1 を参照

・和文表題、和文抄録（400 字以内）、和文キーワード（5 語以内）

・英文表題、英文抄録（200 語以内）、英文キーワード（5 語以内）

①英文表題、英文抄録についてネイティブチェックを受けた証明書類

②原稿本文の PDF 形式のファイル

③投稿者の匿名性を担保するために必要な箇所を、伏せ字(●●)によりマスキングした原稿本文の PDF 形式のファイル。なお、文献等の表記の際には、本人の著であっても「筆者」「拙著」等とせず、著者名による表記とする。

④関連する論文等の PDF 形式のファイル：当該投稿論文と重複のあるテーマ、同一データ・事例・資料等を用いて執筆した既発表論文、もしくは投稿中の論文など

⑤論文の修正箇所を明示・説明した文書の PDF 形式のファイル

⑥英文表題、英文抄録についてネイティブチェックを受けた証明書類の PDF 形式のファイル

附則

一部改正 2024 年 10 月 19 日。ネイティブチェック

証明書類の提出時期を初回投稿時から掲載決定後に変更。2025 年 5 月末締め切り分より適用。

3) 大会若手研究者優秀賞選考委員会報告

4) 社会政策学会賞選考委員会について

次期の社会政策学会選考委員は以下の会員の方々(敬称略)

今井順(留任)、佐藤卓利(新任)、鎮目真人(留任)、廣瀬真理子(新任)、松丸和夫(新任)、宮下さおり(留任)

5) 永年会員となられた会員について

来年度から永年会員となられるのは以下の会員の方々
大前眞、黒田兼一、高田一夫、二木立、仁科保、森ます美、鷲谷徹

6) ガリレオ「個人情報保全管理費」とその覚書について

7) その他

8) 次回大会開催校からのご挨拶

2025 年 5 月 17、18 日 東京都立大学

(中尾友紀)

7. 第149回(2024年秋季)大会若手研究者優秀賞選考報告

(1) 選考の経緯

・9月10日 第1回選考委員会(オンライン会議)

委員は、大津唯、角能、近間由幸、居神浩の4名。居神を委員長とし、選考対象者リストを確認し、今後の選考日程を決定した。

・9月26日 フルペーパー受領

締め切りまでに提出された16本のフルペーパーを対象に一次選考を行うことを決定した。

・10月4日 第2回選考委員会(オンライン会議)

一次選考の結果をもとに、4本を二次選考の対象とすることを決定した。

・10月9日 第3回選考委員会(オンライン会議)

4名の委員のうち3名が優秀賞に推すフルペーパー(以下、当該フルペーパー)について、本人の既発表論文との重複を指摘する意見があった。いったん会議を閉じて、各委員が当該フルペーパーと本人の既発表論文との異同について3日間のうちに詳細に検討することにした。

・10月12日 第4回選考委員会(メール会議)

詳細な検討結果を踏まえて、当該フルペーパーを優秀

賞としないことを合意した。そのうえで、他の3本のフルペーパーについて3日間のうちに優秀賞の検討を行うことにした。

・10月15日 第5回選考委員会(メール会議)

3本のフルペーパーについて慎重に検討したが、優秀賞の水準に達していると判断するのは難しく、優秀賞の授与を見送ることにした。

*第4回以降は委員の日程調整ができず、オンラインではなくメール会議にした。

・10月19~20日 大会

(2) 選考の結果(受賞作)

16本の対象フルペーパーを審査した結果、該当作品なし。

(3) 審査講評

二次選考において優秀賞に推す声の高かった当該フルペーパーは本人の既発表論文とは問いの設定や結論は異なるものの、分析の記述において本人の既発表論文と重複する部分が少なくなく、しかも注や参考・引用文献でその旨の言及がないことから、優秀賞には推さな

いことにした。

他の3本のフルペーパーについては、着眼点や分析手法など一定の水準には達しているものの、下記の「大会若手研究者優秀賞表彰規定」細則8項で定める基準に達するには、より専門性の高い査読委員のチェックを経て「小幅」とは言えない追加修正が必要なように判断したため、残念ながら優秀賞の授与を見送った。

なお以前「該当作品なし」と判断された時(第145回)には論文としての水準の低さが指摘されていたが、今回はむしろ現行の審査体制の限界によるところが大きかったと思われる。

今回は選考対象作品が16本と過去最多であり、およそ2週間のうちに優秀賞1本を選考するというかなりタイトなスケジュールのため、すべてについて既発表論文との重複をチェックする時間的余裕がなかった。

また現行の「大会若手研究者優秀賞表彰規程」に関する細則の8項では「本賞の受賞の対象となったフルペーパーは、原則、選考委員からのコメントをふまえて改善を施すことで、「大会若手研究者優秀賞レフェリー付」論文として取り扱い、学会誌『社会政策』に掲載するものとする。ただし、受賞者が応募した場合に限る。」と定められている。さらに「社会政策学会誌編集規程審査細則」の「2 投稿原稿の審査(2)」によると、「査読委員は、審査結果を下記の評価区分で表記する。」

A: 学術的に優れており、掲載を可とする。

B-1: 小幅な手直しが必要であり、指摘した箇所が修正されれば、再査読を経ずにそのまま掲載可とする。

B-2: 大幅な手直しが必要であり、再査読を経て改善が確認されれば掲載可とする。再査読においてさらに改善のための修正を求めることがある。

C: 掲載不可とする。

となっているが、厳密な意味での「査読委員」ではない「若手優秀賞選考委員会の選考委員」が「コメントによる改善を経て、学会誌に掲載する」ことを可能にするフルペーパーの評価水準は、上記評価区分の「B-1レベル以上」かと思われる。

二次選考においてこのレベルに達していたのは当該フルペーパーのみと判断したが、上述のような瑕疵が認められた。他の3本のフルペーパーについて相対評価による順位を決めるのは難しいことではないが、学会誌掲

載水準という絶対評価を下すのは難しく、通常の学会誌投稿の手続きに委ねた方が、若手研究者優秀賞および学会誌の水準を担保するためにも望ましいのではないかと判断するに至った。

(文責: 第149回大会若手研究者優秀賞選考委員会)

8. 2024-2026 年 期幹事会報告

第3回幹事会

日時: 9月20日(金) 19:00~21:30

開催方法: オンライン

出席: 菅沼隆、居神浩、大津唯、鬼丸朋子、垣田裕介、角能、金井郁、禿あや美、金成垣、熊沢透、駒川智子、田中聡子、志賀信夫、杉田菜穂、藤原千沙、水野有香、百瀬優、森詩恵、山崎憲、山根純佳、吉村臨兵、米澤旦、百瀬優、中尾友紀

欠席: 阿部彩、榎一江、小澤裕香、櫻井純理、松本伊智朗

議題:

I. 事務局からの報告と協議

1. 新入会員の承認
2. 会員名簿管理関係

ガリレオによる「個人情報保全管理費」の徴収について、現会員を継続的に半額とすることを交渉する。今後は、非アクティブ会員の情報をどのように保持するか検討する。

3. 学会賞選考委員の承認

新規: 佐藤卓利、廣瀬真理子、松丸和夫

継続: 今井順、鎮目真人、宮下さおり

4. 第18回日中韓三国国際社会保障論壇(広州)について(報告)

II. 各委員会・担当報告

1. 学会誌編集委員会

ネイティブチェックの回数を1回とすることを検討している。

学会誌投稿中論文の学会報告を若手賞対象とするか否か、今後のあり方を決める必要がある。

2. 春季大会企画委員会

登壇者を決定した。

3. 国際交流委員会

基幹交流事業として LERA 76th Annual Meeting

分科会参加 4 名の参加費支援を完了した。

国際交流助成事業として、8 月末日締め切りの海外研究者招聘助成制度及び国際学会報告助成制度の案内を行ったところ後者に 2 名の応募があった。1 件あたり 10 万円の助成を行う。

中国及び韓国との国際交流事業として 2025 年度の春季大会で分科会を企画している。

4. 広報委員会

広報の受付窓口をフォームズでの受け入れに一本化する。

5. 若手研究者支援担当

大会若手研究者優秀賞選考委員会を設置。委員は伊神、大津、角、近間。

学会誌に掲載する受賞論文の取り扱いについて、細則 8 項を削除し、受賞したフルペーパーを学会誌に自動的に掲載する取り扱いを止めることとしたい。これまでのフルペーパーで学会誌に掲載された論文は査読付き論文として取り扱ってよいことを確認した。

「若手研究者の旅費補助規程」第 3 条に、「旅費申請時に、交通費の金額がわかる領収書や乗車券・特急券などの写真やスキャンデータなどを提出する。旅行社から発行されるバック料金等についても、内訳がわかる明細書及び行程表を提出する。」を加筆する。

6. 地方部会担当

地方部会活性化に向けてのアンケート調査結果について報告。

「地方部会会員名簿」の作成を検討する。

7. ニュースレター担当

次号の内容及び発行スケジュールを確認した。

次回幹事会日程

10 月 18 日 15:00~17:30 に大分大学経済学部棟 1 階第 1 会議室で、オンライン併用で開催する。

第 4 回幹事会

日時：10 月 18 日（金）15:00~17:30

開催方法：大分大学経済学部棟 1 階第 1 会議室での対面とオンラインのハイブリッド

出席：菅沼隆、阿部彩、居神浩、榎一江、大津唯、垣田裕介、角能、金井郁、禿あや美、金成垣、熊沢透、駒川智子、櫻井純理、志賀信夫、杉田菜穂、田中聡子、藤原千沙、水野有香、森詩恵、山根純佳、山崎憲、吉

村臨兵、米澤旦、中尾友紀（記）

欠席：小澤裕香、鬼丸朋子、松本伊智朗、百瀬優

第 149 回大会実行委員長の石井さんから学会準備状況の報告

議題：

I. 事務局からの報告と協議

1. 新入会員等の承認

2. ガリレオ・個人情報保全管理費「覚書」について 報告（別紙）

第 3 回幹事会で報告した「覚書」をガリレオと 11 月 1 日付で締結する。

3. Solti 検索モジュールへの地方部会カテゴリー追加 について

ガリレオに追加費用 50,000 円で、Solti に地方部会カテゴリーの追加を依頼した。10 月末を目途に追加される。

4. 第 4 回幹事会議案 総会議案関係

明日の総会では、若手研究者支援担当から若手賞の扱い及び旅費補助規程、編集委員会から投稿細則の改訂を報告する。

5. その他

10 月末時点で会費未納の会員に、ガリレオから会費督促メールが送信される。

II. 各委員会・担当報告

1. 若手研究者優秀賞審査委員会

第 149 回大会では該当作品なしとしたい。

フルペーパーの質をどう考えたらよいか検討する必要がある。

2. 学会誌編集委員会

投稿細則の改定に伴うシステムの改修に時間を必要とするため、新たなルールの適用は、2025 年 5 月末締め切りからとする。

3. 秋季大会企画委員会

自由論題の座長 1 名を交代する。

4. 春季大会企画委員会

登壇者をすべて決定した。

報告の申込を Google フォームで受け付けることとした。プログラムは 3 月に作成して発送する。

5. 国際交流委員会

欧米、中国、韓国以外の国との交流について、タイ、ベトナムの研究者との交流を企画している。

6. 広報委員会

共通論題のメイン論文とプログラムを掲載した英語版の論集No.13 及び 14 を10月中旬にアップした。

Google フォームで受け付ける体制整備を進めている。

7. 若手研究者支援担当

委員会化に伴い、研究者フォーラムの世話人についても委員としたい。

割引会員等の区分の登録情報が現実に即していないため、今後、検討したい。

8. 地方部会担当

具体的な内容は、SOLTI で名簿が抽出できるようになってから相談したい。

9. ニュースレター担当

内容を確認した。

Ⅲ. 協議事項

1. 学会報告フルペーパーの基準と情報共有について

A) フルペーパーの位置づけ(報告の質、学会誌投稿奨励、学会報告証明、参加者事前閲覧、分科会非参加者の閲覧)

B) 若手賞の審査対象としてのフルペーパーの位置づけ

C) フルペーパー未提出者の扱い、提出義務の程度

D) フルペーパーの基準(学会誌投稿論文に「準ずる」の意味)

E) 学会全体での情報共有について
継続して議論する。

2. 学会賞選考委員会(前)からの検討依頼(別紙)

A) 学術賞と奨励賞の対象:「研究歴」を考慮しているのか。対象を区別できるか。選考基準は異なるのか同一なのか。

B) 候補作の形式:「まとまった学術書」形式を重視するべきか。一般向け・論文集を選考対象に含むべきか。別の表彰カテゴリーを設けるべきか。

C) 審査期間:前年1~12月に出版されたものを3か月程度で審査。タイト・ハードな作業。秋季大会発表だと余裕がある。

3. 役員選挙のあり方について

A) 投票率の向上の工夫

B) 推薦制度の運用方法 推薦の基準、手続き、推薦文の配布方法(ガリレオ使用)

第5回幹事会

日時:2月18日(火)19:00~21:30

開催方法:オンライン

出席:菅沼隆、阿部彩、居神浩、大津唯、鬼丸朋子、角能、金井郁、禿あや美、金成垣、熊沢透、駒川智子、櫻井純理、志賀信夫、杉田菜穂、田中聡子、藤原千沙、水野有香、百瀬優、森詩恵、山崎憲、山根純佳、吉村臨兵、米澤旦、中尾友紀(記)

欠席:榎一江、小澤裕香、垣田裕介、松本伊智朗

議題:

I. 事務局から

1. 新入会員の承認

2. 学会報告フルペーパーの扱い

「自由論題報告・テーマ別分科会報告の募集」の「共通の注意事項」の(5)を書き換え、さらに、「二重投稿に関する注意」の前に《フルペーパーとは》を挿入する。

学会が招聘する非会員の海外在住の外国籍の研究者の報告については、フルペーパー提出を厳密には適用しないが、提出を推奨する。外国語でなされる報告は、事前のフルペーパー提出があると参加者は読んで出席できるため望ましい。《フルペーパーとは》の②③を柔軟に解釈するということが良いのではないか。

3. 学会賞発表・授賞式の秋季大会への変更と会則第26条改正

第4回幹事会で、2025年度から学会賞の表彰は秋季大会の総会時に行うこととなった。

上記に伴い、会則第26条を「本会は、毎年の春季大会時に総会を開く。」から「本会は、大会時に総会を開く。」と改正する。

4. 開催校支援のあり方(2025秋、2026秋)

2025年秋季大会(関西学院大学)の支援は、幹事会から支援担当幹事として熊沢さんに担って頂く。2026年秋季大会(中京大学)の支援は、次期幹事会で決定する。

5. 次年度予算の準備

物価上昇を反映させた各委員会の予算の希望を、3月末までに事務局に提出して欲しい。

6. 役員選挙準備

スケジュールを早めに確定して早めに周知すること、推薦制度を活用することで、投票率を高められないか。ただし、それには、制度について会員に周知する必要がある。

ある。

7. 再建 70 周年誌の図書館寄贈、リポジトリ化

「再建 70 周年記念誌」の PDF ファイルを学会 HP「文書館」にアップして一般公開する。

8. 政治経済学・経済史学会（旧土地制度史学会）からの同学会大会共通論題について

会則第 2 条の目的（内外の学会との交流）に即しているとして承認した。

9. 「個人情報保全管理費」の契約

3 月 5 日にガリレオにて調印する予定。

II. 各委員会・担当報告

1. 春季企画委員会報告申請審議、開催校準備状況

自由論題 25（うち若手賞有資格者 13）、テーマ別分科会 6 について報告を承認。5 月 18 日（日）昼の教育セッションは、「社会政策研究とは何か？」をテーマに実施する。

2. 秋季企画委員会

共通論題テーマ「介護保険制度 25 年の検証と評価」で打ち合わせをしている。

3. 編集委員会

学会誌 17 巻 1 号について編集委員会の企画として学会誌改革に関する小特集を設ける。

今後、執筆要領を見直す。

4. 国際交流委員会

助成事業 2 件について現在、支払い手続き中。海外研究者招聘助成に 1 件の応募があった。アジア部会では今後、2025 年春季大会では中国、韓国、2025 年秋季大会ではタイ、2026 年春季大会ではベトナムとの交流を企画している。

海外研究者招聘助成事業を国際交流分代会として運営すると、参加費、懇親会費を免除できる。この件は、次回幹事会で議論する。

5. 広報委員会 HP リニューアル

HP リニューアルについて進捗を報告。2025 年 7 月頃にリニューアルしたい。Bulletin は今後、依頼企業を検討する。

6. 若手支援委員会 委員会規程審議

現在の若手支援担当を常置の委員会とするため、若手研究者支援委員会規程を作成した。研究者育成フォーラムの担当者も委員としたいため、委員若干名には、その担当者も含まれると解釈している。

7. 地方部会担当

地方部会ごとの名簿作成について、会員がエクセルファイルとして一括ダウンロードすることは構造上できないため、今後は毎年度、ガリレオにエクセルファイル（所属大学、メールアドレス）の作成を依頼して、名簿を入手することとする。

2025 年春季大会で、地方部会責任者の会合を開催したい。2 日目昼休みを希望。

学会 HP「地方部会」サイトで欠落しているものについて今後広報委員で補足していく。

8. 専門部会担当 活動費ガイドライン

春季大会までに活動費ガイドラインを作成する。

9. 関連学会協議会ワークショップ企画（3 月 15 日）

学会の将来を考えるというシンポジウムを企画。各学会が抱える問題について、各学会から今後を担う中堅研究者が登壇して討論する。

10. ニュースレター担当

次号目次について確認した。

次回幹事会日程

4 月 2 週目、3 週目に幹事会を開催する。（中尾友紀）

9. 政治経済学・経済史学会大会共通論題の共催のお知らせ

このたび、政治経済学・経済史学会より同学会の共通論題について共催の依頼がありました。幹事会で協議し、共催に賛同することにいたしました。参加申込の方法などは後日お知らせします。会員の皆様の積極的なご参加を期待します。

日時・会場：6 月 28 日（土）

会場：東京大学

「戦後日本における「価値の承認」の展開——自営・雇用・ジェンダーの関係性を中心に」

論題と報告者：

「働く場からみた自営・雇用・ジェンダーの関係性——「役割」を中心に」

禹宗杭（法政大学）

「暮らしの場からみた自営・雇用・ジェンダーの関係性——「社会財」としての川と水・水辺を対象として」

沼尻晃伸（立教大学）

「女性就業における雇用と雇用によらない働き方」

木本喜美子（一橋大学名誉教授）
 コメンテーター：
 ドイツ史の視点から；福澤直樹（名古屋大学）
 自営業と地域の視点から；植田展大（立命館大学）

家族の視点から；嶋崎尚子（早稲田大学）
 司会：
 安藤光義（東京大学）
 金慧昇（南山大学）

（社会政策学会幹事会）

10. 承認された新入会員

2024 年 9 月幹事会承認（5 名）

河合 信太郎	株式会社日本能率協会総合研究所社会イノベーション研究事業本部	社会保障・社会福祉
伊藤 裕輔	新潟青陵大学福祉心理子ども学部社会福祉学科助教	社会保障・社会福祉
鈴木 良	同志社大学社会学部社会福祉学科教授	社会保障・社会福祉
陳 勝	尚絅大学短期大学幼児教育学科助教	社会保障・社会福祉 その他（貧困研究、教育福祉論）
橋本 泰博	日本政策投資銀行	労使関係・労働経済

2024 年 10 月幹事会承認（1 名）

橋本 典幸	佐賀県地域交流部空港課	その他（福祉社会）
-------	-------------	-----------

2025 年 2 月幹事会承認（17 名）

高橋 知優	熊本学園大学大学院商学専攻大学院生	労使関係・労働経済
田中 萬年	なし	労働史・労働運動史（職業訓練・職業能力開発分野）
安 周永	龍谷大学政策学部政策学科教授	その他（労働政治）
矢萩 努	矢萩努税理士事務所	労使関係・労働経済
鶴 幸一郎	社会福祉法人フォレスト倶楽部	社会保障・社会福祉
菊永 一志	菊永建設株式会社	労働史・労働運動史
任 貞美	Gyeongsang national university	社会保障・社会福祉
那須 蘭太郎	東京大学大学院学際情報学府学際情報学専攻大学院学生	その他（社会階層・意識）
二神 麗子	日本社会事業大学社会福祉学部福祉援助学科講師	社会保障・社会福祉
荻田 航太郎	筑波大学大学院人文社会ビジネス科学学術院人文社会科学研究群（博士後期課程）国際公共政策学位プログラム大学院学生	労使関係・労働経済、その他（移民政策（主に技能実習及び特定技能））
金澤 貴之	群馬大学共同教育学部特別支援教育講座教授	その他（特別支援教育）
佐藤 千矢子	毎日新聞社論説委員	労使関係・労働経済、ジェンダー・女性
新田 凌大	東京都立大学大学院人文科学研究科社会行動学専攻社会福祉学教室大学院学生	社会保障・社会福祉
賈 瑩瑩	千葉大学大学院人文公共学府特別研究学生	ジェンダー・女性
小坂 亜希子	なし	社会保障・社会福祉
藤島 法仁	福山平成大学福祉健康学部福祉学科教授	社会保障・社会福祉
渡久地 美智留	日本社会事業大学大学院社会福祉学研究科博士前期課程大学院学生	社会保障・社会福祉、その他（貧困・生活困窮、地域福祉）